

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和4年6月27日

大阪府知事 殿

受	付
4. 6. 27	
産指第	号
大阪府	

提出者

住 所 大阪府摂津市西一津屋1番1号

氏 名 ダイキン工業株式会社 淀川製作所  
執行役員所長 村井 哲

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号06-6349-0259

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	淀川製作所
事業場の所在地	大阪府摂津市西一津屋1番1号
計画期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	16. 化学工業 25. 汎用機械器具製造業 27. 業務用機械器具製造業
②事業の規模	57,651百万円
③従業員数	2,549人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1の通り

（日本産業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項 (管理体制図) 別紙2の通り		産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		産業廃棄物の排出の抑制に関する事項													
		【前年度(令和3年度)実績】		【前年度(令和3年度)実績】		【前年度(令和3年度)実績】													
①現状	産業廃棄物の種類	①汚泥	12,915 t	②廃油	1,443 t	③廃アルカリ	1,005 t	④廃プラスチック類	571 t	⑤木くず	293 t	⑥金属くず	195 t	⑦ガラスくず	19 t	⑧安定型混合廃棄物	25 t	⑨廃電池類	1 t
	排出量	(これまでに実施した取組) ・環境マネジメントシステムによる排出原単位削減目標設定と削減取組みの継続的実施 ・切削水の使用量適正化、使用済み切削水の濃縮による含油废水発生量抑制 ・水製成パレットの再使用推進による木くず発生量抑制 ・品設計段階から廃棄物の抑制を促す新たな環境影響評価指標の導入																	
②計画	産業廃棄物の種類	①汚泥	12,950 t	②廃油	1,430 t	③廃アルカリ	990 t	④廃プラスチック類	560 t	⑤木くず	290 t	⑥金属くず	190 t	⑦ガラスくず	20 t	⑧安定型混合廃棄物	25 t	⑨廃電池類	1 t
	排出量	(今後実施する予定の取組) ・2025年度を目標年度とする新たな排出物削減取組み計画を事業部門毎に設定して取組む ・容器(金属・複合プラ)を内容物・素材ごとに管理強化することにより、有価物への転換 ・製品設計段階から廃棄物の抑制を促す新たな環境影響評価指標の導入 ・製品設計段階から廃棄物の抑制を促す新たな環境影響評価指標の定																	
産業廃棄物の分別に関する事項																			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・各部署での廃プラスチック類の徹底、新入社員・転職者に対する教育																		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 従来の取組み継続																		

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項 (管理体制図)		産業廃棄物の排出の抑制に関する事項					産業廃棄物の排出の抑制に関する事項					産業廃棄物の排出の抑制に関する事項					
		【前年度(令和3年度)実績】					【前年度(令和3年度)実績】					【前年度(令和3年度)実績】					
		産業廃棄物の種類	①汚泥	②廃油	③石膏	④廃アルカリ	⑤廃プラスチック類	⑥木くず	⑦金属くず	⑧ガラスくず	⑨安定型混合廃棄物	⑩廃電池類					
①現状	排出量	12,915 t	1,443 t		3 t	1,005 t	571 t	293 t	195 t	19 t	25 t	1 t					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでに実施した取組</li> <li>環境マネジメントシステムによる排出原単位削減目標設定と削減取組の継続的実施</li> <li>切開水の使用量適正化、使用済み切開水の濃縮による含油廃水発生量抑制</li> <li>木製屑パレットの再利用推進による木くず発生量抑制</li> <li>品設計段階から廃棄物の抑制を促す新たな環境影響評価指標の導入</li> </ul>																
②計画	排出量	12,950 t	1,430 t		6 t	990 t	560 t	290 t	190 t	20 t	25 t	1 t					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>(今後実施する予定の取組)</li> <li>2025年度を目標年度とする新たな排出物削減取組計画を事業部門毎に設定して取組む</li> <li>容器(金属・複合プラ)を内容物・素材ごとに管理強化することにより、有価物への転換</li> <li>製品設計段階から廃棄物の抑制を促す新たな環境影響評価指標の導入</li> <li>製品設計段階から廃棄物の抑制を促す新たな環境影響評価指標の定</li> </ul>																
産業廃棄物の分別に関する事項		【目標】					【目標】					【目標】					
①現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組</li> <li>各部署での廃プラスチック類の徹底、新入社員・転勤者に対する教育</li> </ul>																
②計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</li> <li>従来の取組み継続</li> </ul>																

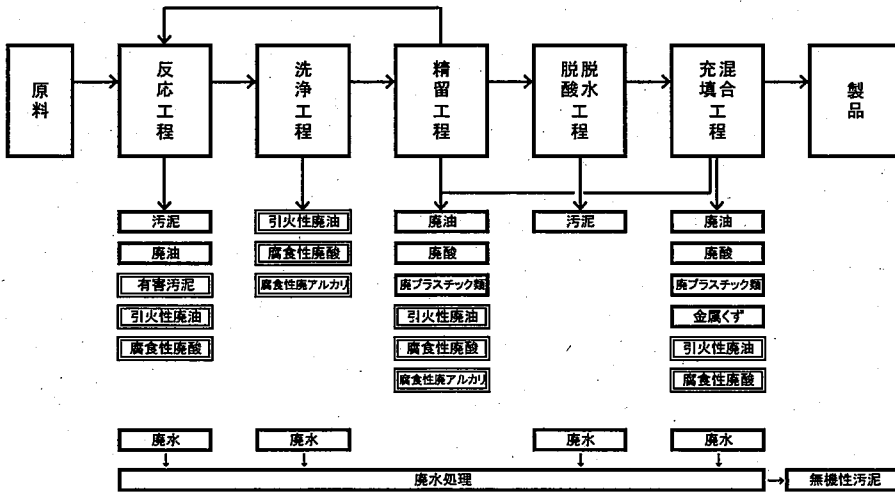
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項		自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項				自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項				
【前年度(令和3年度)実績】		【前年度(令和3年度)実績】				【前年度(令和3年度)実績】				
産業廃棄物の種類	①汚泥	②廃油	③廃酸	④廃アルカリ	⑤廃プラスチック類	⑥水くず	⑦金属くず	⑧ガラスくず	⑨安定型混合廃棄物	⑩廃電池類
①現状	308 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
②計画	303 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(これまでに取組んだ取組) ・含フッ素廃液の焼却破壊により、生成するフッ化水素酸中の中和による再生塩石の回収 ・従来の取組み継続										
【目標】 ①汚泥 ②廃油 ③廃酸 ④廃アルカリ ⑤廃プラスチック類 ⑥水くず ⑦金属くず ⑧ガラスくず ⑨安定型混合廃棄物 ⑩廃電池類										
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項		自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項				自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項				
【前年度(令和3年度)実績】		【前年度(令和3年度)実績】				【前年度(令和3年度)実績】				
産業廃棄物の種類	①汚泥	②廃油	③廃酸	④廃アルカリ	⑤廃プラスチック類	⑥水くず	⑦金属くず	⑧ガラスくず	⑨安定型混合廃棄物	⑩廃電池類
①現状	6,270 t	152 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
②計画	6,400 t	457 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(これまでに取組んだ取組) ・廃水処理汚泥の脱水による原料化、含フッ素廃液(廃油)の焼却破壊 ・従来の取組み継続										
【目標】 ①汚泥 ②廃油 ③廃酸 ④廃アルカリ ⑤廃プラスチック類 ⑥水くず ⑦金属くず ⑧ガラスくず ⑨安定型混合廃棄物 ⑩廃電池類										

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項		自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項				自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項				
【前年度(令和3年度)実績】		【前年度(令和3年度)実績】				【前年度(令和3年度)実績】				
産業廃棄物の種類	①汚泥	②廃油	③廃酸	④廃アルカリ	⑤廃プラスチック類	⑥木くず	⑦金属くず	⑧ガラスくず	⑨安定型混合廃棄物	⑩焼電池類
①現状	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) 行っていない	- t	- t	- t	- t	- t	- t	- t	- t	- t
②計画	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量 (今後実施する予定の取組) 行っていない	- t	- t	- t	- t	- t	- t	- t	- t	- t
産業廃棄物の処理の委託に関する事項										
【前年度(令和3年度)実績】										
産業廃棄物の種類	①汚泥	②廃油	③廃酸	④廃アルカリ	⑤廃プラスチック類	⑥木くず	⑦金属くず	⑧ガラスくず	⑨安定型混合廃棄物	⑩焼電池類
全処理委託量	6,645 t	948 t	3 t	1,005 t	571 t	293 t	195 t	19 t	25 t	1 t
優良認定処理業者への処理委託量	2,468 t	769 t	3 t	1,005 t	472 t	293 t	55 t	19 t	25 t	1 t
再生利用業者への処理委託量	900 t	519 t	2 t	325 t	242 t	293 t	141 t	15 t	25 t	0 t
認定回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
認定回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	1,963 t	428 t	1 t	528 t	329 t	0 t	54 t	5 t	0 t	0 t
①現状	(これまでに実施した取組) ・処理委託開始前にGIS及び現物サンプルによる廃棄物性状確認の実施 と発生工程変更時のGIS目直し ・処理委託前の現地確認及び定期的な現地確認の実施、電子マネーフェ ストンスシステムを用いた処理進捗の監視 ・コロナウイルス感染拡大への対応として、リモート現地視察の検討 を行った									

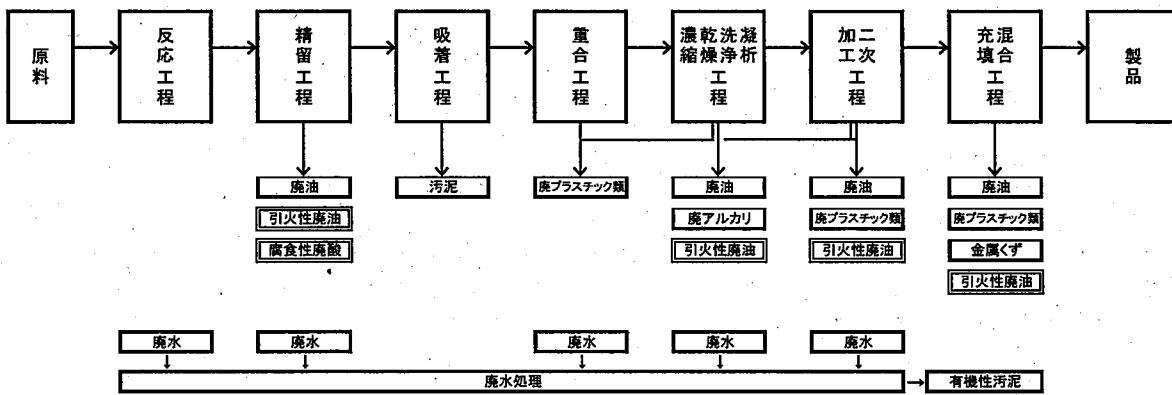
産廃廃棄物の種類	【目標】									
	①汚泥	②廃油	③廃酸	④廃アルカリ	⑤廃プラスチック類	⑥木くず	⑦金属くず	⑧ガラスくず	⑨法定型廃合廃棄物	⑩廃電池類
全処理委託量	6,550 t	670 t	6 t	990 t	560 t	290 t	190 t	20 t	25 t	1 t
優良認定処理業者への処理委託量	2,400 t	670 t	4 t	990 t	470 t	290 t	50 t	20 t	25 t	1 t
再生利用業者への処理委託量	900 t	520 t	2 t	320 t	240 t	290 t	140 t	15 t	25 t	1 t
認定回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
②計画 認定回収業者以外 の燃回収を行う業者 への処理委託量	1,900 t	150 t	2 t	520 t	320 t	0 t	50 t	5 t	0 t	0 t
※事務処理欄	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・処理委託開始前にMS及び現物サンプルによる廃棄物性状確認の実施</li> <li>・発生工程変更時のMS見直し</li> <li>・処理委託前の現地確認及び定期的な現地確認の実施、電子マニフェストシステムを用いた処理進捗の監視</li> <li>・コロナウイルス感染拡大のため、業務出張して約2年間の現地視察を計画的に実行。現地視察する人員を強化。また自社拠点やグループ会社と現地視察情報を共有し効果的に現地視察を進める</li> </ul>									

別紙1. 産業廃棄物発生工程フロー

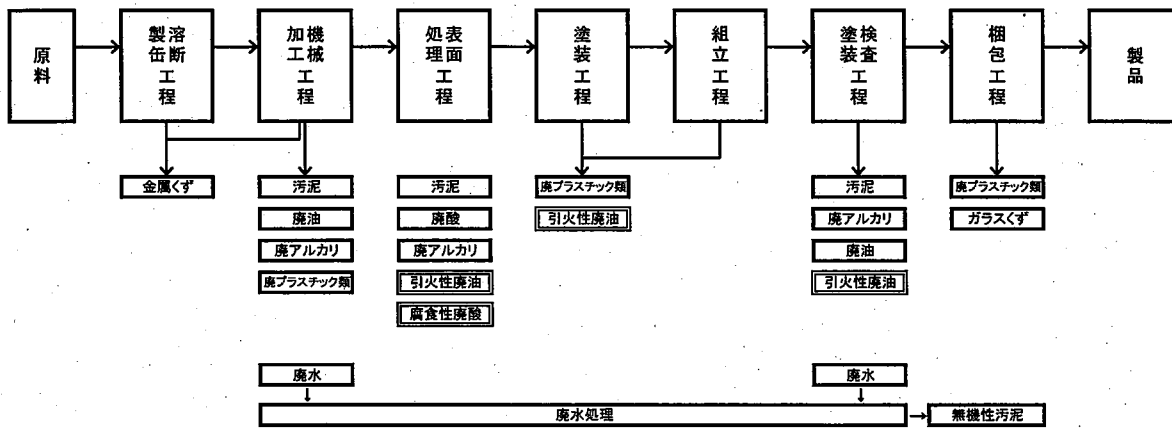
化学品製造工程フロー図



フッ素樹脂製造工程フロー図

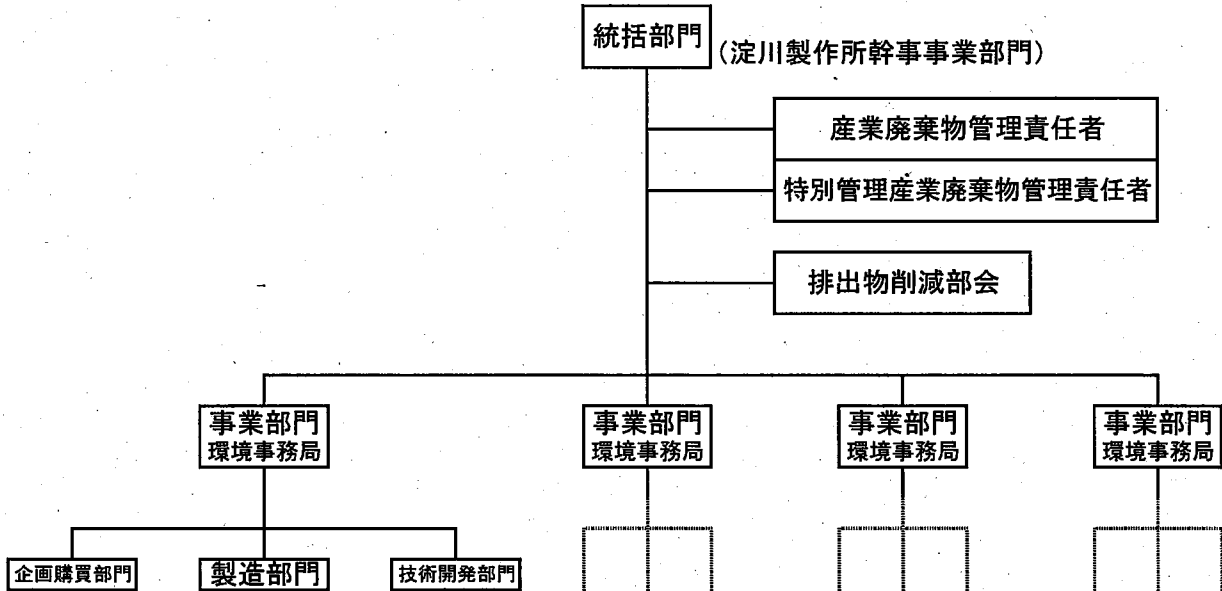


機械製造工程フロー図



## 別紙2. 管理体制図及び各部署の役割

### 〔管理体制図〕



### 〔各部署の役割〕

部署	役割
統括部門	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業廃棄物の発生工程ごとの発生量・性状の把握</li> <li>産業廃棄物ごとの処理委託業者の選定及び契約管理</li> <li>電子マニフェストの運用管理</li> <li>処理委託台帳の管理</li> <li>処理委託先の処理状況視察(定期及び不定期)</li> <li>行政に対する報告等</li> <li>産業廃棄物の適正管理及び減量化に関する社内啓発</li> <li>事業場共通発生廃棄物の集積管理及び処理委託先への引渡し</li> <li>中間処理施設の維持管理に関する情報開示</li> <li>各部門間の調整及び指示</li> </ul>
排出物削減部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業場共通発生品の分別・再資源化に関する企画立案</li> <li>事業場共通発生品の分別回収に関する社内啓発</li> </ul>
事業部門環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>自部門で発生する産業廃棄物の発生工程ごとの発生量・性状の把握</li> <li>自部門で発生する産業廃棄物の適正管理に関する部門内啓発</li> <li>自部門で発生する産業廃棄物の減量化計画の策定及びその実行</li> </ul>
製造部門	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業廃棄物の種類、性状、発生量及び排出量等の把握</li> <li>産業廃棄物発生工程の設備及び運転状況の管理</li> <li>産業廃棄物保管場所の維持管理及び保管状況の管理</li> <li>中間処理施設の稼働状況の把握、記録の作成等</li> <li>産業廃棄物の分析及び環境事象の分析、測定等</li> <li>上記について自部門の環境事務局に報告</li> </ul>
技術開発部門	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業廃棄物発生量削減等の製造プロセス検討</li> <li>副製品の有効利用に関する技術検討</li> </ul>
企画購買部門	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業廃棄物処理費用及び技術検討費用の予算管理</li> <li>産業廃棄物処理委託料金支払いによる業者管理</li> </ul>